

第9講 黄金狂時代のアメリカと「誇示的消費」

1 The Gilded Age in U.S.

ソサエティの章 四つの階層

(1) 少数グループ都市の道徳的、宗教的生活の規範となるような人格者からなるクラス
ヨーロッパの貴族に連なる名門

(2) ニューヨークに、最初に移り住んだオランダ移民の子孫。

オールド・ニッカポッカー

(3) 父や祖父から巨大な遺産を受け継いだ人達。祖先は貴族ではない。オールドマネー

(4) 最も多数派。南北戦争後、鉄道、石油、鉄鋼、毛皮、鉱石などで財をなした人たち。
いわゆるニュー・リッチ（新興成金）からなり、ニューヨークのファッションナブルなソサエティを形成。

グラント・セントラル・ステーション

イーディス・ウォートン『歓楽の家』(1905)より。

2 J. P. モーガンのもう一つの顔

T. Veblen, Theory of Business Enterprise

現代の産業の二大区分。ものを制作することを目的とする産業 Industry

金儲けのための金儲けビジネス、営利企業、Business

3 誇示的（顕示的）消費の時代

ソースティン・ヴェブレン Thorstein Veblen 1857-1929

(1)生涯

(2)理論 ソースティン・ヴェブレン『有閑階級の理論』

『営利企業の理論』ほか

ヴェブレンのいう歴史的発展段階

1 未開時代 人間には「もの作りの制作本能」と「競争心」という二つの本能がある。

原始時代は、とりあえず、競争しているどころではなく、今日明日を生き抜くために、選りよい暮らしを求めて、制作本能のみで平和に暮らしていた。

2 略奪の時代 未開社会と違って、食糧危機が乗り越えられ、余剰食糧、備蓄の時代になる。生命の危機が去る。ところが、共同体内、共同体間で、人の上に立つものが現れ、暴力で富を得る時代となる。競争の本能が発揮される。7：3の割合

3 反平和愛好的な略奪段階

略奪の時代のように、明確な暴力ではなく、商取引のように、商人がうまくビジネスをすることによって準略奪をするようになる。誰かが利益を得る（富む）ということは、その分誰かが損をすることでもある。もの作りの本能との割合は、5：5

4 平和愛好的産業段階

現代。生産性は高まり、安全な生活を送ることができる。しかし、この時代は、所有が一種のゲームとなり、有閑階級が形成される。この時代、割合は、7：3